

アコさん、ありがとう。

～アコ基金 50 周年記念 特別号～

拝啓 黄昏時の風に、涼やかな虫の音が耳に心地よい季節となりました。
アコさん、いかがお過ごしですか。

あなたから初めてお手紙をいただいたのは、昭和四十六年四月のことでした。あれから五十年。昭和、平成と時代は移り変わり、令和を迎えてなお毎月あなたが送ってくださる白封筒は、六百通を超えました。手にとるたび、見覚えた文字にあなたの穏やかな微笑みを想っています。

この度、「社会福祉の一助に」とのあなたの優しさを後世につなぐため、アコ基金五十年記念行事を催すことといたしました。新型コロナウイルス感染拡大により世界中が大混乱に陥っている今、敢えて、人と人との繋がり、人を想うことの大切さについて、子供も大人も皆で一緒に考える機会となればと思います。

五十年というあまりにも長い年月とたくさんの白封筒を前に、どのような言葉をもってお礼を申し上げて良いか分かりません。ただただ、感謝の想いでいっぱいです。これからも、誰もがお互いに支え合い助け合い、寄り添いながら安心して暮らすことのできる町づくりを目指し、全力を尽くして参りますので、どうか見守っててください。立秋とは名ばかりの暑さがつづきます。くれぐれもご自愛ください。

令和三年八月

奥出雲町社会福祉協議会

敬具

アコ様



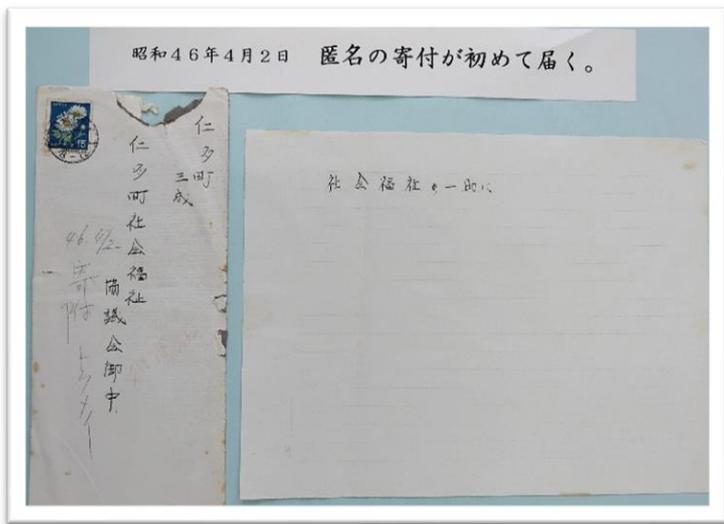
アコ基金ってなあに？



【はじまり】

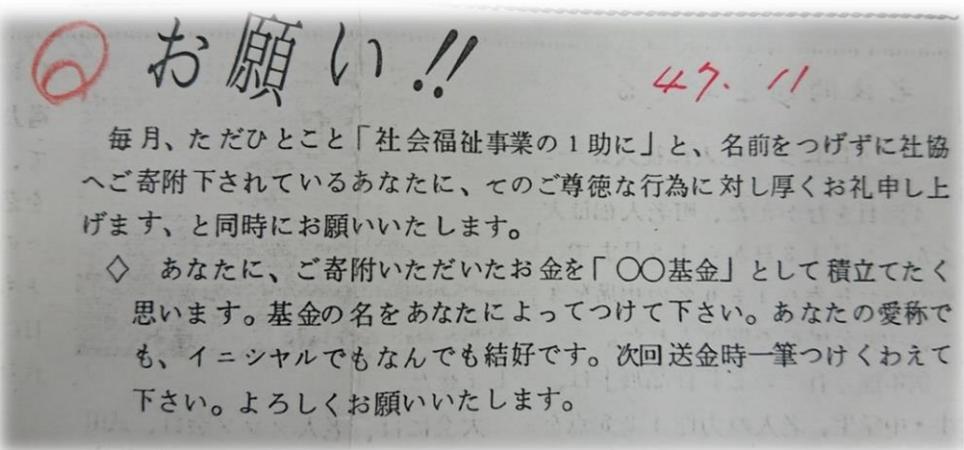
昭和四十六年四月二日、一通の白封筒が当時の仁多町社会福祉協議会に届きました。

中には千円札が一枚と、「**社会福祉の一助に**」と一言だけ書かれた手紙が添えられていました。

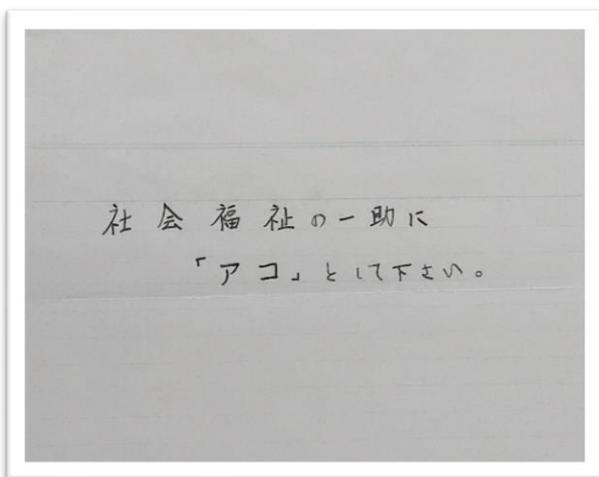


【基金の命名】

同年十一月、仁多町社協は広報誌の紙面において、次のように匿名の寄付者に呼びかけました。



すると翌十二月には、次のようなお返事をいただきました。



このお返事により『**アコ基金**』と命名された基金の積み立てが始まりました。

【広がるアコさんの輪】

仁多中学校では、「アコさんの気持ち」を町中に広げよう！という生徒の発案で「**アコの花々**」という**いっぱい運動**が始まりました。基金の利息を使いサルビアやマリーゴールドの花を育て、たくさんアコの花が町中に溢れました。

また、この花いっぱい運動は「仁多町いろはカルタ」に、

真心が

実って咲いた

アコの花

と詠まれています。



アコ基金の推移

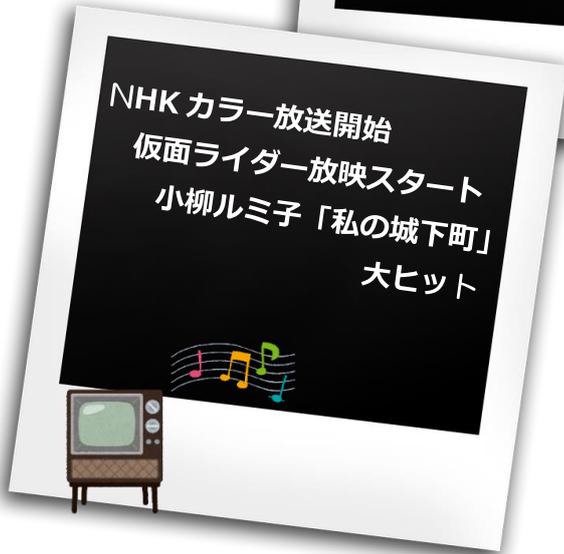


アコさんがどこのどなたかということについては、基金の名前に「赤ちゃん」を意味する「アコ」とつけられたこと、また文字の雰囲気から、おそらく女性だろうと推測されてきました。

昭和四十六年といえ、大学新卒初任給の全国平均が四万円、喫茶店で飲むコーヒーが一杯百二十円の時代です。

そんな時代に、女性が初めて送ってくださった千円は、決して少ない金額ではなかったはず。

当時のアコさんの想いに触れるため、昭和四十六年がどんな時代だったか、少し振り返ってみましょう。



アコ基金 50年の推移 総額 3,355,000 円 !!

昭和46年4月～令和3年3月 (1971.4 ~ 2021.3)

昭和46年4月～昭和47年7月	16カ月	1,000円/1通	16カ月×1,000円=16,000円
昭和47年8月～昭和47年12月	5カ月	2,000円/1通	5カ月×2,000円=10,000円
昭和48年1月～昭和49年1月	13カ月	3,000円/1通	13カ月×3,000円=39,000円
昭和49年2月～平成25年7月	474カ月	5,000円/1通	474カ月×5,000円=2,370,000円
平成25年8月～令和3年3月	92カ月	10,000円/1通	92カ月×10,000円=920,000円

新聞記事に見るアコさんの偉大な功績

山陰 中央 新 報

アコさん名乗り出て

6年間も匿名で寄付

はや25万円に「一言お礼を」

仁多町社福協

仁多郡仁多町社会福祉協議会へ六年間にわたって毎月善意の寄付を続けている人がいる。匿名のため、住所、氏名など一切わからないが、同社協では「直接本人に会ってどうしてもお礼を述べたい。どうか名乗り出てください」と名無しのスポンサーに呼びかけている。

寄付が始まったのは、去る四十六年四月から。この時は千円送ってきたが、翌四十七年八月から二千元、四十八年一月から三千元、

四十九年二月からは五千元と物価上昇に合わせてるかのようにならなくなった。送付方法は普通封書。当初福祉事業の一助に」と添え書きされていたが氏名、住所はなかった。同社協が四十七年十一月の「社協だより」に「匿名ではなく、せめてイニシアルでも」と訴えたところ翌月からただ「アコ」とカタカナの署名が入り出した、という。書体だけでは男女の区別

もわからない。封書にある仁多局の消印を頼りに同郵便局も調べたが結局わからずじまい。「毎月、町広報でも寄付された方の氏名を公表していますが、毎月欠かさずしかも永年にわたって寄付を続けられる例は初めてです」と同協議会は話している。



※写真はイメージです。

山陰中央新報
(昭和五十二年二月二十八日)
アコさんからの寄付が毎月届くようになって、もうすぐ六年という頃です。
当時、香典返しや見舞い返し以外の理由で社協に寄付をする方は珍しく、また、それがどのどなたか分からなかったこと、毎月決まって白い封筒で送られてくることなどミステリアスな要素も相まって、報道機関に大きく取り上げられました。

匿名の「アコ」はだれ?

8年も毎月続く愛の寄金

仁多町社
会福祉協

すでに38万円も

来月 公民館に感謝状掲げる

【仁多】仁多郡仁多町の町社会福祉協議会（会長・岩田伸町長）に、八年間毎月匿名の寄付が届いている。送り主は、いまだにわからない。町社協では、来月下旬にオープンする町中央公民館に、この愛の定期便の主「アコさん」への感謝状を掲げる。



8年間も続く愛の「アコさん」定期便

寄付が始まったのは四十六年四月。仁多局の消印で、千円入りの封筒が届いた。添えられた一枚の便せんには「社会福祉事業の一助に」とあるだけで、氏名、住所はどこにもなかった。

寄金は、その後も毎月続き、金額も増えていった。四十七年八月からは千円、四十八年一月から三千円、四十九年二月から五千元に。すでに総額は三十八万五千元にもなっている。

同社協は「せめてお礼を」と、四十七年十一月、町内全世帯に配っている「仁多町社協だより」で、送り主探しをした。「名前を告げず、寄付をいただいているあなたに厚くお礼をいいます。こんど、送金されているお金に『○○

基金』と名前をつけようと思いません。あなたの愛称でも、イニシャルでもいいですから、次回の送金のおきに一筆つけ加えて下さい」。

翌月の送金の時「わたしの名前は『アコ』にして下さい」という短い返事がついてきた。社協ではさっそく、「アコ基金」と命名、本格的に「アコさん」探しを始めた。封書にある仁多局の消印を頼りに郵便局へ問い合わせ、町役場で書体を見てもいい、似た字を書き入を聞いた。でも、やはりわからない。ただ▽封書が仁多局の消印で、出した翌日に着いている▽社協だよりは町内しか配っていない—などから、町内に住んでいる人に違いない、という推測はできた。

「アコ基金」は、図書購入費、医療費の補助などに役立っている。社協では「これだけ長く続いている寄付はありません。ぜひお礼がほしい。どうしても匿名にしなければならぬ理由があるのなら、次の送金の際に書き添えて下さい」といっている。とりあえず、来月二十一日オープンする町公民館の一角に感謝状を掲げて、お礼にかえることにした。

渡部勝彦・仁多町社会福祉協議会事務局長の話「永年の好意に感謝しています。アコ基金はたくさん町民に役立っています。ぜひ名乗り出てください」。





「アコ基金」の設定を計画する町社協の渡部事務局長
—仁多郡仁多町の町役場で

10年間続く匿名の奇金

仁多町社会
福祉協議会

「アコ基金」設ける

福祉活動の助成に活用

ふるさとの福祉に役立てて

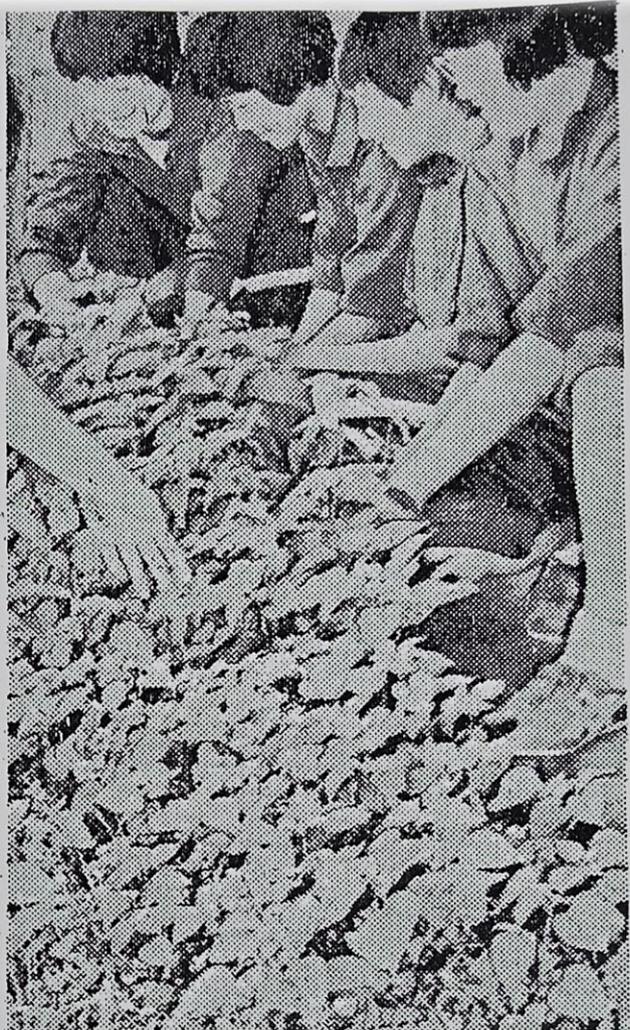
仁多郡仁多町の社会福祉協議会に毎月一回、十年間も匿名の奇金が届いている。定期便はすでに百二十通。奇金は一回、千円—五千円、五月現在で総額五十万五千円になった。贈り主は「アコ」というだけで住所、氏名は不明のまま。町社協では「アコ基金」を設け、福祉活動に活躍する若者への助成金として活用する考えだ。

千円札一枚が同封されていた。以来、毎月、差出人の不明の封書が定期便に。「一度お礼をせよ」と。四十七年十二月発行の「社協だより」で「名前を知らせて」と呼びかけた。すぐ返事があつた。十二月十三日付の定期便に奇金と一枚の便せんが。横書きのきれいなペン字で「社会福祉の一助にアコとして下さい」とだけ書かれていた。仁多町では赤ちゃんのことを「アコ」という。アコさんからの返信はこの一度きり。その後も奇金は途絶えることがなく今年五月で十年に。

寄金は着実に増えた。社協の善意銀行の入金記録によると、四十六年四月—四十七年七月「毎月千円」、四十七年八月—同十二月「同二千円」、四十八年一月—四十九年二月以降は「同五千円」。

社協の話では同町の見舞い返しや香典返しの奇金は月平均二十一件、約二十三万円になる。町人口(約一万人)に対する老人比率が一六〇という老人町。町は老人ホームの備品やゲートボール用具の購入などに充てている。「一方、アコさんの奇金は「名前がわかるまでは」と積み立ててきた。五十四年六月、社協ではアコさんの隠れた善意に対し「他の町民の模範アコ殿」と感謝状を贈った。受取人のない感謝状は額に納められ同月、町中心部の同町三成に掲示された。「アコさんの目にはいれば」という思いが込められていた。また、アコさんの奇金は毎月発行される町広報「にた」の善意の灯コーナーに一般寄付「アコ殿五千円也」などと掲載され、この十年、この一行の記事は消えることがなかった。

社協の渡部勝彦事務局長は「十年も続くと、匿名のままアコさんの好意をそっとしておきたくなる。あて名の文字から推量すると差出人は女性。奇金も最初は小遣いから今は給料の一部を送金してくれているのでは。基金で善意を生かしたい」と話している。



「アコの花」町いっばいに

仁多町 12年続く匿名寄金

仁多郡仁多町の社会福祉協議会（岩田会長）に毎月一回、二年間も匿名で寄金が続いている。その名は「アコ」。積み上げてきた寄金は六十万円を超え、同社福協ではこのほか「アコ基金」として定期預金。善意

の輪を町中に広げよう、と町立仁多中学校（磯田兄訓校長、四百四十七人）などと協力。生徒らが学校で「アコの花」と名付けた苗を育てて持ち帰り、自分の家や近所の家にも配って、花であふれた町づくりを目指して

とになった。初めて寄金が届いたのは四十六年四月。封筒に千円札一枚が入れられ、「社会福祉の一助に」とだけ書いた便せんが添えられていた。使い道を考えているうち、翌月も千円が。以来、

「アコの花」の苗を世話する生徒ら。仁多中学校で

寄金は毎月欠かさず届き、翌年八月からは一回二千円に増えた。同社福協では同年末、広報紙を通じてインシヤルだけでも名乗りをあけてくれるよう呼びかけた。四十八年一月、三千円とともに「アコ」の愛称があった。アコの積立預金が始まった。

寄金は五年、六年、そして十年と続く。一回の寄金も四十九年二月からは五千円に。額が増すにつれ、同社福協では「せっかくの善意。意義あるものでなければ……」と、使い道をますます慎重に考えるようになった。一方、町でも二年ほど前に「アコ殿」あてに感謝状をつくって町民体育館の掲示板に張るとともに、「アコはだれ」とさがしたが結局、わからずじまいだった。

今春、仁多中学校での卒業式。磯田校長が「町内にこんな立派な人がいる。町には中学校

輩だ。負けないような人間になってほしい」と、話した。感銘した生徒らの間で「アコ」が話題になっていた。

岩田会長らが磯田校長らと「寄金のいい使い道はないものか」と話し合った。「去年、島根国体が開かれ花いっばいの町づくりに取り組んでいる」「中学でも数年前から学校中に花を植えて、さるおいを求めている」などと話はずむうち、学校と地区ぐるみの花いっばい運動を広げよう、とこのことだ。子どもも大賛成だった。

同社福協は、今年四月で計六十一万五千円に達した寄金を定期預金にして「アコ基金」を設けた。今年見込める利息分約二万円をもとに学校では、マリィーゴルドとサルビア計約一万本の種と苗を学校内の苗場に植えた。「アコの花」と呼ぶことにし、千五百本の名札を書き込んだ。生徒らは順調に育った苗を数本ずつ自宅へ。「アコ」の気持ちを町中に広げよう」と、子どもらは夏休みに入ってから

平方の「アコの花の花壇」も造った。いまでは生徒らは、花の本当の名前より「アコの花」の呼び名に親しみを感じているほどだ。

「アコ」さんは、封筒の消印から町内の人で、筆跡や愛称から女性とみられる。磯田校長は「花育ては、子どもらの情操教育にもなるし、町が花いっばいになるのはアコさんの願いにもつながるのでは」と話している。

朝日新聞
（昭和五十八年八月十五日）



町長から「感謝状」

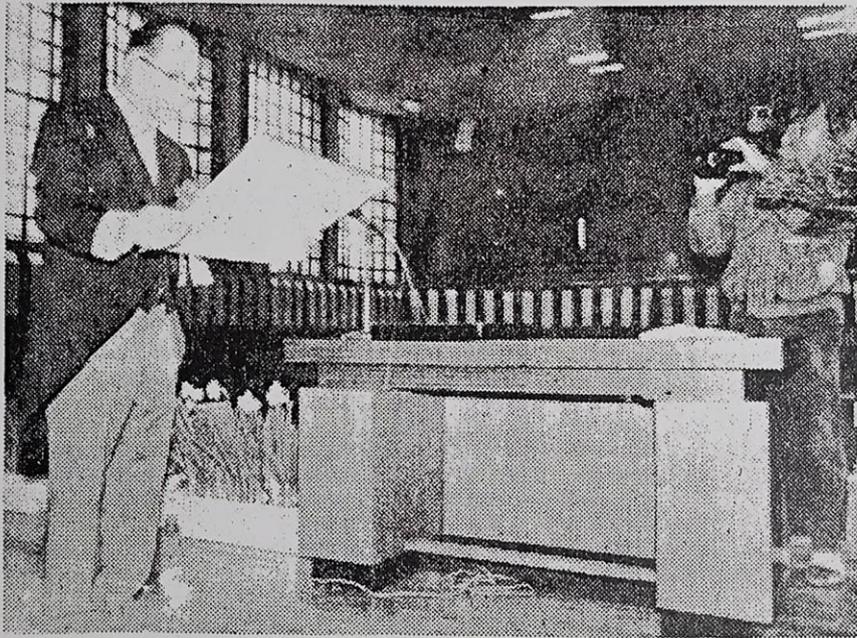
匿名寄付で 福祉の心を育む

仁多町合併30周年式典

「アコ」さん 14年ありがとう

仁多町の合併三十周年記念式典が十五日、町民体育館で行われ、町社会福祉協議会に十四年間にわたって毎月、匿名で愛の寄金を続けている「アコ」に町が初の感謝状を贈った。寄せられたお金は既に七十三万円に上り、アコ基金として利息が全町花いっぱい運動に活用されるなど、善意の輪は三十周年を機にさらに広がっていきつつある。

「社会福祉の一助に」と、この匿名の寄金が始まったのは四十六年四月。町社福協あてに、封筒の裏側に「アコ」とだけ書いた千円の入った手



姿のない「善意の主」への感謝状を読む岩田一郎町長

紙が寄せられたのが最初。その後、二千元、三千元となり現在は五千元。町社福協では多郵便局の消印から匿名の主を探したりしたが、「筆跡か

ら女性らしい」というだけで身元は依然分かっていない。一方、寄せられたお金は当初、一般の寄付と同様に扱っていたが、長年にわたって続けたため二年前、それまでのお金を一括してアコ基金を設立。福祉の心を育てようと利息で仁多中にアコ花壇を建設し、生徒たちがサルビア、マリーゴールドなどの花を育てている。そして、昨年からは約二千五百の町内全戸への花の種の配布を目指して進められている。

この日午前九時半からの記念式典には来賓、自治会の代表ら約四百人が出席。新たに制定した町民憲章の披露などに続いて岩田一郎町長が歴代町長、議長ら七人と一団体に感謝状を、元教育、民生委員ら十四人と一団体に表彰状を贈った。このうち、善行の感謝状を受ける「アコ殿」には、受賞者のいない壇上で「毎月欠かさぬ愛の募金は町の誇りとするとこころです」と読み上げた。また、式典後、山陰中

央新報社の山本勲論説主幹が「地方の時代に生きる」と題して講演した。

山陰中央新報

(昭和六十年四月十六日)

仁多町合併三十周年記念式典において、町長から感謝状が贈られました。

姿のないアコさんに向かい町長が感謝を述べた。姿は、多くの町民の胸を打ちました。

この感謝状授与は、山陰中央新報のほか、中国新聞、読売新聞、朝日新聞でも大きく取り上げられ話題となりました。





◇昭和 54 年 6 月 21 日
仁多町社会福祉協議会会長
感謝状

◇昭和 60 年 4 月 15 日
仁多町合併 30 周年記念式典
仁多町長 感謝状

◇昭和 60 年 9 月 19 日
島根県総合社会福祉大会
島根県社会福祉協議会会長
感謝状

◇平成 12 年 7 月 30 日
アコ基金創設 30 周年記念
仁多町社会福祉協議会会長
感謝状

◇平成 17 年 3 月 25 日
仁多町閉町式
仁多町長 感謝状

◇平成 21 年 9 月 2 日
アコまごころ号納車記念式典
奥出雲町社会福祉協議会会長
感謝状

アコまごころ号って？

次のページへ GO!!



40年間毎月寄付金

奥出雲町
社協に

り福祉車両「アコまごころ号」を購入した。その後も寄付は続き、同車両は介護予防サロ

かれた手紙と、千円札1枚が入った封書が送られてきた。寄付は毎月届き、基金化に向け

同社協が広報誌で名前を尋ねたところ、同年12月に「アコ」としてとの返信があった。

金額は次第に増え、74年2月以降は5千円。220万円を超えた2009年9月には、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

は、この浄財で10人乗

児童養護施設などに寄付を贈る「タイガーマスク運動」が広がる中、奥出雲町社会福祉協議会（田中和夫会長）には40年前から、「アコ」と名乗る人から毎月、寄付金が封書で寄せられている。これまでの総額は228万5千円。同社協は「アコ基金」と名付けて事業に役立てている。

タイガー運動にはるか先駆け



アコさんから送られた封書と、奥出雲町社会福祉協議会が保管している寄付金の受取証明書

「アコ」さん
総額228万5千円

取材ノド

山陰中央新報
(平成二十三年二月三日)

取材ノド
奥出雲町社会福祉協議会に39年間絶えることなく匿名の寄付「アコ基金」が届けられている。同封されていた「福祉の助」の思いが長く、善意の思いが長く、敬意を抱く。

1971年4月に初めて届いて以来、46多い今。こうした思い1通を数える。額も千円だったのが2千円、持つことで、福祉の充3千円になり、74年2月以降は5千円に。社協は「アコ基金」として目に見る形に」と福祉

「アコまごころ号」とは、ふれあいサロン参加者の送迎車です!!

(ふれあいサロンは、令和3年度から名前が“フレイル予防塾”に変わりました!)

昭和46年4月から平成21年3月までのアコ基金の積立金、総額2,175,000円で購入させていただきました。社協が高齢者の介護予防を目的として実施している“ふれあいサロン”の参加者のみなさんを送迎する車です。

アコの花が咲く緑豊かな奥出雲の町を、アコさんの真心を乗せた車が、今日もたくさんの笑顔とともに走っています。



アコさんありがとう

奥出雲町社会福祉協議会 匿名の善意「アコ基金」で福祉車両購入へ

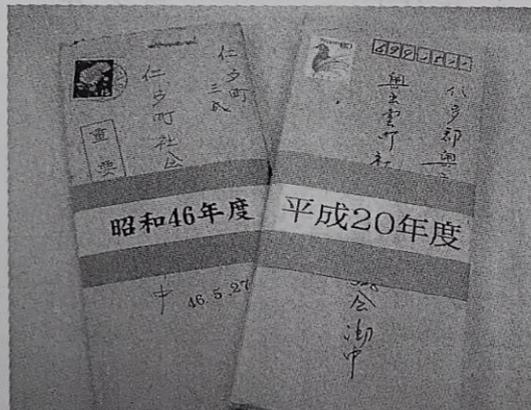
奥出雲町の同町社会福祉協議会(田中和夫会長)に毎月数千円の匿名の寄付金が届くようになって三十九年目。「アコ基金」と名づけ、同社協で積み立てられた基金総額は四月末現在で二百八万円。同社協ではこのほど、アコ基金を活用し、高齢者のための福祉車両を購入することにした。

一九七一(昭和四十六)年四月、一通の白封筒が旧仁多町社会福祉協議会に送られてきた。中には千円札一枚と「社会福祉の一助に」とだけ書かれた手紙。封筒は毎月届き、同社協は同年、同社協

ことになった。千円だった寄付金は、その後千円、三千円になり、七四年四月からは五千円に。白封筒は四百四十通を超えた。同社協では四月十日の理事会で、町内の高齢者が集う「ふれあいサロン」などの送迎用の十人乗りワゴン車をアコ基金で購入することを決めた。社協の松村吉雄事務局長(58)は「アコさんにいたくばかりではないけれど、どこかで区切りをつけて目に見えるものにして目に見えない。ありが

たいと思います」と話している。どこかでアコさんに読んでもらえるのを期待

し、福祉車両購入を知らせる「拝啓アコ様」と題した手紙を社協の報誌四月号に掲載した「アコさんのまごころ」を乗せた車が走りまわっています。夏までに町内を走る「アコ号(仮称)」は、いつか、ご覧になってほしいです。



アコさんから奥出雲町社会福祉協議会へ届いた封筒の束

島根日日新聞(平成21年5月23日)

【アコ基金の運用】

アコ号購入に基金を使わせていただいた後も、アコさんからのご寄付は毎月途絶えることなく続いています。社協では、アコ基金積立金管

理運用委員会を設置し最良の方法で積み立てると共に、どのように運用することが奥出雲町の地域福祉の充実に繋がるか、じっくりと考えていきます。

令和2年度末現在
アコ基金積立金
1,180,000円



アコさんに感謝して…

奥出雲町社会福祉協議会

会長 山本勝昭

一通の白い封筒に、ただ一言「社会福祉の一助に」と添えられて届いた感動から五十年。その封筒は、五十束・六百通となりました。年ごとに束ねた封筒は、既に色あせたものもあり長い年月を覚えてくれます。

人知れず、名も告げず、ひたすら無償の愛を続けていただいていることに感動し感謝の言葉に尽きます。これまでにお寄せいただいた貴重な浄財は、「アコ基金」として積み立て運用させて頂いています。特に、福祉車両「アコまごころ号」は、ふれあいサロン（現フレイル予防塾）に参加する笑顔の高齢者を送迎しています。これからも社協だより「ふくしの窓」をはじめ色々な場所で情報発信をしていきますので、どうか見守っていただきたいと思います。

大きな愛情と強い信念の持ち主アコさんの、今後ますますの幸せを祈りつつ、改めて敬意を表しお礼申し上げます。

アコ基金 50周年記念イベント

令和3年10月30日(土)

会場 奥出雲町民体育館

時間 13:30 ~ 16:00

開場 13:00~

どなたでも
お気軽に
お越しください。

お願い

コロナウイルス感染症予防のため次のことをお願いします。

- ①ご来場の際にはマスクの着用をお願いします。
- ②入り口では、検温・消毒をしていただき、受付簿に住所、氏名、電話番号の記入をお願いします。
- ③当日ご来場者多数の場合は、入場制限を実施する場合があります。

13:30~ 記念式典

14:00~ 記念演奏

「ふかふかトリオ」

マリンバ&クラリネット&電子ピアノによる演奏です。お楽しみに!!

催し物 14:30~

- アコさん展示コーナー
- ボランティア団体紹介コーナー
- 企業と社協の連携事業
- 「つなぐ」製品販売コーナー
- 当てくじ・駄菓子屋
- 景品付き軽スポーツ

日用品などの
掘り出し物
バザー
もあるよ!





【テーマ】

誰かに伝えたい。

「あの時は、ありがとう。」

人生を振り返った時、誰しも感謝を伝えたい人が何人か思い浮かぶものです。担任の先生、職場の先輩、近所のおばあさん、友達、家族、もしかしたらアコさんのように、どこの誰かも分からない人…。

あの時、助けてくれた、親切にしてくれた。そんな心の中に秘めている「ありがとう」を、言葉にしてみませんか？

○下記または任意の用紙にエピソードをご記入の上、社協までお送りください。

○文字数など形式は自由です。

○お名前は、イニシャルやニックネームでも結構です。

○お寄せいただいたエピソードは、10月30日に開催するアコ基金50周年記念イベント(前ページ)の会場に展示させていただくほか、一部を「ふくしの窓12月号」に掲載させていただきます。

【郵送】〒699-1511
奥出雲町三成 260-1
【FAX】54-0801

【エピソード】 誰かに伝えたい。 **「あの時は、ありがとう。」**

お名前・ニックネームなど



1 善意銀行運営事業

町民の皆様からいただく浄財を適切に管理運用し、地域福祉の増進を図ります。

1. 積立金管理運用検討委員会の開催
2. 寄付金や寄付物品の管理と有効活用
3. アコさん 50 周年記念イベントの実施

2 法人運営事業

適切な法人運営や事業経営を行うとともに、総合的な企画や各事業の調整等を行う法人全体のマネジメント業務を行います。

1. 理事会、評議員会、監査会、評議員選任解任委員会、内部経理監査会等の運営
2. 財務運営と管理
3. 自主財源確保に向けた体制づくり
4. リスク管理やコンプライアンスに関する管理体制の整備
5. 計画的な採用・異動・人事考課等の人事管理
6. 研修・能力開発等の計画的な人材育成
7. 労働法制に基づいた労務管理
8. 所轄庁への届け出や対外的な法的対応を行う法務に関する業務
9. 「社協発展・強化計画」の策定等の将来ビジョンの検討と進行管理
10. 広報活動・広報戦略等
11. 災害対応マニュアルの策定に向けた協議



3 防災・災害ボランティアセンター運営事業

町の防災計画に基づき、防災に関する意識を啓発するとともに、有事の際の災害ボランティアセンターの設置運営を行います。

1. 災害時対応マニュアルの策定
2. 防災研修会の開催

4 ボランティアセンター事業

住民のボランティアに関する理解と関心を深めるとともに、ボランティアの育成を図ることにより、助け合いの輪を広げる活動を推進します。

1. ボランティア活動に関する調査、研究
2. ボランティア活動の普及・啓発
3. ボランティア活動支援事業実施要綱によるボランティアの養成と派遣ならびに活動支援
4. 福祉ボランティア教育や総合学習の支援

5 おくいずも流地域力活性化事業

住民ひとりひとりが安心して生活できる地域をつくるため、'向こう三軒両隣精神'を土台とする地域社会のしくみを再建し、住民が主体的に自らの力を集結した地域力を醸成することを支援します。

1. 福祉振興協議会、地区振興会の活動支援
2. 福祉委員活動の活性化
3. 地域住民同士の繋がり強化
4. 老人クラブや精神障がい者家族会などの活動支援
5. 障がいに関する理解促進と障がい者支援
6. 自死予防対策の推進
7. 小地域給食サービスボランティア活動の普及啓発
8. 『新たな支えあいファンド事業(県社協主催)』の推進



6 生活支援体制整備事業

高齢者が住みなれた地域で安心して暮らすことができるよう、生活課題を発見し地域の繋がりを構築します。

1. 地域の高齢者支援のニーズと資源の見える化及び問題提起
2. 地縁組織等多様な主体への協力依頼等の働きかけ
3. 関係者のネットワーク化
4. 生活支援サービスの担い手の養成及びサービスの開発

7 共助の基盤づくり事業

地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくりを構築します。

1. 実態把握と生活課題の検討の実施
2. 地域の福祉ニーズを踏まえた地域サービスの創出、推進を図るための関係機関との連携
3. 地域における活動拠点の確保
4. 抜け漏れのない支援の実施

8 ひきこもりサポート事業

ひきこもり支援の基盤を構築し、ひきこもりの状態にある本人や家族等の状況を踏まえた早期支援、自立支援を図ります。

1. ひきこもり相談の窓口、支援機関の情報発信
2. 関係機関とのネットワーク、ひきこもり支援拠点づくり
3. ひきこもりサポーターの養成と派遣

9 介護予防普及啓発事業

地域の高齢者に対して介護予防に関する知識を提供することにより、健康寿命を延ばす活動を行います。

1. 地区ごとでの専門家による『フレイル予防塾』の開催（月1回/地区）
2. 『男の生涯現役道場』の定期的な開催（月1回）

10 食の自立支援サービス事業

一人暮らし、高齢者のみの世帯の高齢者(65歳以上)の、健康で自立した「食」生活を支援します。

1. 調理業者や配食ボランティアとの連絡調整
2. ボランティアによる弁当の配達と利用者の見守り



11 障がい者等配食サービス事業

心身の障がいにより調理が困難な障がい者(18歳以上 65歳未満)の、いきいきとした在宅生活を食の面から支援します。

1. 調理業者や配食ボランティアとの連絡調整
2. ボランティアによる弁当の配達と利用者の見守り

12 高齢者安心安全生活サポート事業『コールセンター』

支援ネットワークを通じた見守り体制を強化することにより、高齢者の安心安全な生活を支援します。

1. コールセンターのオペレーターによるテレビ電話を活用した見守りの実施
2. 民生委員や地域包括支援センターなど関係機関との連携した支援の実施



13 介護予防拠点施設管理事業

高齢者が介護を要する状態にならないよう予防し、生きがいを持って毎日を送ることができるよう支援するための施設を管理します。

1. 介護予防を目的とした活動を実施する団体への施設貸出
2. 近隣自治会などの会合、趣味活動等を目的とした活動を実施する団体への施設貸出
3. エレベータ、消防設備の保守など施設設備の管理

14 家計改善支援事業

家計に問題を抱える生活困窮者に対し、家計の視点からの情報提供や家計の見える化等の専門的な助言や指導等を実施し、自立の促進を図ります。

1. 家計管理に関する支援
2. 滞納の解消や各種給付制度等の利用支援
3. 債務整理に関する支援
4. 貸付のあっせんの支援

15 企業と社協の連携事業『つなぐ』

既存制度では対応が困難なひきこもり等の方に対し、人や地域とのつながりを適切に確保する支援を行うとともに、地元企業や地域全体で支える基盤を構築します。

1. 対象者本人やその家族に対する相談支援と見守り
2. 就労体験の実施
3. 地元企業等との連携強化と新規開拓



16 福祉サービス利用援助事業『まもるくん』

認知症や障がいにより判断能力が不十分な方が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援します。

1. 専門員による支援計画の作成
2. 生活支援員による福祉サービスの利用援助や金銭管理
3. 通帳、年金証書などの大切な書類の預かりサービス
4. その他福祉サービス利用に係る援助等



17 法人後見事業

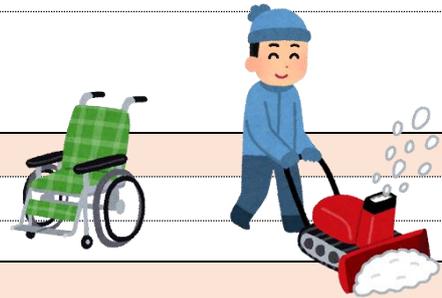
認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など、意思決定が困難な方を法律的に保護し支援します。

1. 利用者の権利擁護
2. 法人後見運営委員会の開催
3. 成年後見制度に基づいた法人後見の実施

18 困りごと支援事業

様々な困りごとを抱え援助を必要とする方のお手伝いをするにより、その方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援します。

1. 福祉用具(車いす、ベッド等)のリサイクルと無料貸出の実施
2. 除雪機の無料貸出の実施
3. 出張なんでも相談所の開設



19 資金貸付事業

生活に困窮する世帯の自立と更生を支援します。

1. 民生融金の貸付

20 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯等に対する各種資金の貸付を行い、世帯の自立を支援します。

1. 相談窓口、申請窓口の開設
2. 民生児童委員との協働による借受世帯に対する相談援助
3. 島根県社会福祉協議会が実施する現地督励会への協力

21 屋内ゲートボール場管理運営事業

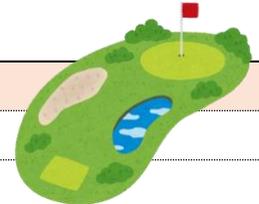
生涯スポーツの振興により、地域福祉の増進を図ります。

1. 生涯スポーツの普及啓発と世代間交流の推進
2. 施設の管理運営

22 グラウンド・ゴルフ場管理運営事業

生涯スポーツの振興により、地域福祉の増進を図ります。

1. 生涯スポーツの普及啓発と世代間交流の推進
2. 施設の管理運営
3. 企業と社協の連携事業『つなぐ』における、ひきこもり対象者への就労体験の場の提供



「福祉と名のつく機関が多すぎて、どこがどこだか分からない!」

「似たような相談窓口ばかりで、どこに行けば良いか分からない!」

そういう時は、**社協**にご一報ください。ご案内いたします。

『つなげる。受け止める。挑戦する。』

私たちの町には、社協がある。



社会福祉法人奥出雲町社会福祉協議会

〒699-1511 島根県仁多郡奥出雲町三成 260-1

電話 54-0800

情報 31-0800